

「産学協働人材育成ネットワーク」設立準備フォーラム

大学教育における新たな視点－「社会的・職業的自立」につながるコーオペ教育の可能性－



産学協働人材育成ネットワーク
Japan Cooperative Education Network

設立について

2011年1月15日

京都産業大学
松高 政



- ① **「社会が一丸となって人材育成を」と言いながら**
 - どこが、どのように人材(特に若年層:学生、生徒)を育成しているのか?
 - 理工系、大学院レベルでは産学連携が進んではいるが、学部の人文・社会学系は放ったらかし。
- ② **18歳人口の減少と大卒者の質の低下**
 - 平成22年の出生数107万人(前年比2万人減) ※昭和41年:249万人 平成4年:205万人
 - 現状のままで大卒者のレベルが上がるとは考えられない
- ③ **過熱する就職・採用活動の限界**
 - パイの奪い合い的な採用活動が今後も継続的、安定的に成り立つか
 - 大量の母集団を形成し、大量に落とすシステムの非効率性⇒「意義の乏しい過剰な選び合い」
 - かなりのエネルギーを投入しているにもかかわらず、早期離職者が発生
 - 人材への要求水準の高度化と多様化⇔ギャップの拡大
- ④ **日本的雇用システムの動揺と縮減**
 - 長期にわたる経済の停滞とグローバル化による競争圧力
 - 長期雇用と年功賃金を保障した雇用形態を維持することは負担
 - 手厚い企業内教育を前提とした「訓練可能性」を重視する採用システムの機能不全
- ⑤ **学生の直面する課題**
 - 就職活動へ長期間にわたり多大なエネルギーを注ぎ込まざるを得ない状況
 - 「アルバイト」「サークル」・・・しか語ることでできない不幸な学生たち
 - 一定の職業生活を経験して初めて身に付くであろう高度な能力の要求
- ⑥ **大学の対応力の限界**
 - 学問的興味・関心だけでは、学生に学ぶ意欲を喚起できない
 - 大学の教育力再生の可能性が、なかなか見えてこない⇒社会は待ってくれない
 - 大学という古い体質の組織は、自身では本当に変わらない、変わることができない

人材の育成・活用を進める上で、産業界と教育界の協働がカギ



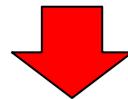
多くの課題が山積
だから今まで取り組まれてこなかった



困難が多いことを承知で、では、どうしたらできるんだらうか？

「大変なことをチャレンジするんだ」という覚悟

自分の大学だけ、自分の企業だけ、のことを考えるのではない



産学が協働するネットワークを構築

1大学、1企業では乗り越えることが無理⇒産業が協働して立ち向かおう



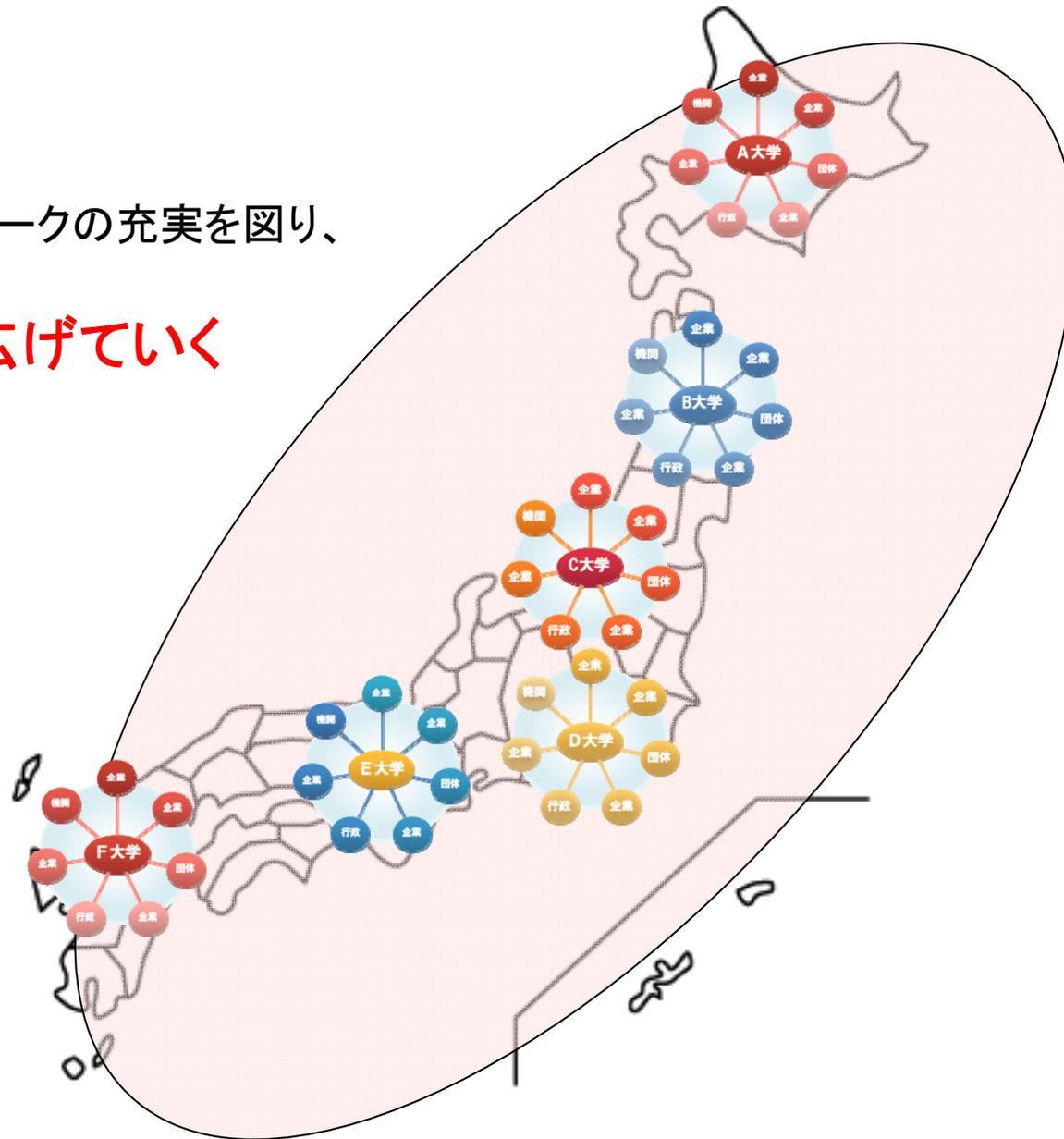
人材育成に関し大学と産業界が恒常的に対話をする場の創設
人材育成に関する産学の共通認識を醸成し、具体的な行動に繋げていく



社会全体として一貫性のある人材育成・能力発揮の仕組みを構築

各大学、各エリアのネットワークの充実を図り、

“点”から“面”へと広げていく



■ 想定される具体的な取り組み例

産学協働による人材育成プログラム等の開発

参考とすべき事例・モデルの蓄積・共有

就職・採用活動の健全化に向けた新たな手法の検討・開発

専門人材の育成・研修

中堅・中小企業の魅力向上と発信

評価手法の検討・開発

産学双方の人材交流

大学間の連携の充実

キャリアセンターの魅力向上と強化

初等中等教育に対する波及方策の検討

・
・
・

機能するネットワークを目指す

① 「設立準備フォーラム」第2弾 東京で開催（2011年3月11日）

※現在、内容を検討中。詳細については、後日ご案内します。

② 「WACE世界大会」視察ツアー : 別紙をご参照ください。



本設立: 2012年3月(目標)

発起人



【方針】

偉い人が名を連ねた組織ではなく、実践者によるネットワーク。
本気で、真面目に取り組もうとするメンバーの集まりとする。
フリーライド(美味しいとこどり)、自分のとこだけ、という考えは持たない。

※設立準備事務局は当面、京都産業大学キャリア教育研究開発センターが担う。